

## 東予総合支所

〒799-1394 周布349番地1 TEL0898-64-2700 FAX0898-65-4363

### 「各自治会によるボランティア清掃」

「自分たちの街は、自分たちの手できれいにしよう」を合言葉に、今年も自治会による一斉清掃が行われました。

この清掃の歴史は長く、昭和50年代前半頃から全地域で始まりました。以前は「一斉大掃除」といわれ、今では自治会にとって、年間の主要行事に位置づけられています。今年も4月半ばから各地区で始まり、5月11日に多賀・国安地区で、18日には壬生川地区で行われるなど、5月を中心に多くの自治会が実施しています。

5月11日は朝の雨にもかかわらず、長靴にスコップや草刈機を手に、多くの人たちが道路や水路、公園や広場等に集まり、いざざらいや草刈に気持ちのよい汗を流していました。一斉清掃で出されるごみの量は、処分場搬入だけで、年間に車で400台から600台、重量で400トンから600トンに

のぼり、毎年その量にはあらためて驚かされています。

この一斉清掃はボランティアとして各地で盛んに行われていますが、そのほかにも東予地区では河原津や高須の海岸清掃、中山川や大明神川の河川清掃、あるいは国道、県道や市道などの清掃があります。このように街の美化には、多くの個人や団体の皆様のご協力をいただいています。

クリーンな街づくりに、地域の皆さんのなご一層のご協力をお願いします。



高須海岸清掃(写真上)と大明神川清掃(写真下)の様子

## 丹原総合支所

〒791-0592 丹原町池田1733番地1 TEL0898-68-7300 FAX0898-68-4769

### 「ふるさとの味を守り伝える」

《丹原町ふるさとの味研究会》

美しい自然と豊かな山の幸に恵まれた丹原町に住む私たちは、地域の農産物を利用して、安全でバランスのとれた「ふるさとの味」の研究に取り組んでいます。

「ふるさとの味研究会」は、郷土料理の普及、地元農産物などを生かした加工品の開発研究を行い、農産加工技術を習得した指導者を育成し、その技術を地域に広め、地産地消活動などを通して地域の発展に寄与することを目的として昭和58年に発足しました。現在は、丹原農村婦人の家を拠点とし、自然の素材を利用した山菜加工や保存食作りの技術習得、手作り味噌作り、郷土料理や特産品の研究開発、視察研修、特産物を活用した料理やお菓子作りの研究、学校との実習交流など、幅広い活動に取り組んでいます。

また丹原特産のあたご柿を利用した5種類の「柿の葉ずし」の作り方がテレビなどで紹介され、大変好評でした。

人から人へ受け継がれる味は、材料は同じでも微妙に違う品に出来上がるのが「手作りの味」ではないでしょうか。私たちは伝統の味を守りつつ、現代の嗜好に合った味作りを追求し、未来を担う若い世代に普及・伝承していきたいと考えています。

皆さんも「ふるさとの味」を探求してみませんか。



▲活動の様子



▲柿の葉ずし ▲手まり

## 小松総合支所

〒799-1198 小松町新屋敷甲496番地 TEL0898-72-2111 FAX0898-72-4048

### 伊予聖人 近藤篤山<sup>とくざん</sup>

皆さんは近藤篤山を知っていますか？近藤篤山とは江戸時代の儒学者で、小松藩に招かれ、藩校「養正館」の儒官として、小松の文化と教育に多大な貢献をした人です。生涯、向学心を失わず、自らの誠実な日常生活をもって人を教育する姿は、「伊予聖人」「德行天下第一」と称されました。

現在の四国中央市土居町で生まれた篤山は、23歳のときに大阪の尾藤二洲（川之江出身の儒学者。寛政の三博士として有名）の塾で学び、その後江戸の昌平坂学問所の儒官となった二洲に呼ばれ、江戸でも学問を続けました。

江戸での勉学を終えた篤山は郷里へ帰り、川之江に塾を開いていましたが、小松藩主一柳頼親から熱心に招かれ、培達校（のちの養正館）の儒官となりました。篤山は、武

士だけでなく領内の農民や商人にも教育の機会を与え、養正館を領民に開放したり、自分の屋敷内に緑竹舎などの私塾を建てたりして領内の誰にでも道徳の大切さを説いていました。さらに、篤山の教えはそれまで対象にされていなかった女子にも及び、その結果小松藩の道徳は伊予随一と認められました。

そして今もなお、小松町には篤山の教えとともに、篤山ゆかりのものが多数残っています。

今後、順次ご紹介していきます。



▲近藤篤山先生の肖像画